

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成3年9月18日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 28名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 生稻 陞
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勤
23 番 石井 昌治	24 番 石井 輝久
25 番 流山源次郎	26 番 辻田 実
27 番 横溝 功	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 佐藤 輝雄
総 務 部 長 二通 英雄	民 生 部 長 佐藤 澄雄
経 済 部 長 脇田 元始	建 設 部 長 伊東 衛
水 道 課 長 鈴木 信一	教 育 委 員 会 長 福原 修

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事 務 局 長 補 佐 土橋 康彦
書 記 鈴木 哲	書 記 鈴木 修一
書 記 加藤 浩一	

1 議事日程（第3号）

平成3年9月18日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時03分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数27名、これより第3回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

質問の方法等は昨日と同じであります。

これより発言を願います。

17番議員鈴木忠夫君。御登壇願います。

（17番議員鈴木忠夫君登壇）

◎17番（鈴木忠夫君） さきに通告いたしました3点について御質問をいたしたいと思います。

まず第1点は、防災体制についてでございます。市民の生命、財産を災害から守るために館山市地域防災計画が策定され、これに基づいて毎年防災会議が開かれて種々の対策が検討され、実施されてきております。先般8月中旬には防災ハンドブックが発刊され、各戸に配布されました。防災の日を前にしてまことに時宜を得たもので、関係者の御努力に敬意を表するものでございます。私も多くの市民と同じように、家族とともに一読させていただき、自分の身は自分で守るための細部にわたっての知識として、有事に際して大いに役立ててまいりたいと存じます。

幸いにも当市は関東大震災以来大きな災害を受けることもなく、そうした意味では大変に恵まれた自然の中で育ってきた市民が大多数となっております。それだけに市民の大半は災害の恐ろしさを知らないのが実情となってお

ります。関東大震災の教訓を生かしてと言われながら、残念なことです、今の私たちには関東大震災の教訓はほとんどありません。「災害は忘れたころにやってくる」という言葉を耳にしていまいりました。今回の防災ハンドブックを配布してから、一般市民からどのような反響があったかお尋ねいたします。

私も防災ハンドブックを手にしてから、市民の声を聞いてみました。その結果、台風シーズンでもあり、風水害に際しての関心が強かったように思われます。一例を申し上げますと、自分の住んでいる地域の排水路は果たしてどの程度の雨量に耐えられるのか。防災無線によってさまざまな指示が行われるわけですが、うちの中で聞き取れるだろうかなど、特に年配の方々からは不安そうな気配をうかがうことができました。土地利用の変化、すなわち宅地造成が進む中で、これまでの排水路では下流の機能が麻痺し、改修の必要が生じてまいります。

例えば昨年9月30日が最近では最も激しい雨量のあったことを記憶しておりますが、豪雨の中を日ごろから排水で苦慮しております境川上流の長須賀方面、熊野神社裏の現地に行ってみましたが、大網方面からの水量と青柳方面からの水量で排水路は完全に麻痺の状態でありました。さらに、この水の原因を調べるために、青柳の交差点からさらに南条方面に足を進めてみると、途中の水田の水はあふれて、左右とも道路と水田の区別さえも判別できない上に、この水の一部が裏宿方面に流れ込む状態を目の当たりにいたしまして、排水路の下流の状況をもう一度思い浮かべて身の縮む思いがし、排水路の改修が急務であることを感じてまいりました。こうした地域の実情に即した災害の危険性を常に把握し、これに対処してこそ市民が安心して生活のできるまちづくりではないかと思えます。

そこで、防災に関する質問の2は、市当局では降り始めてからの雨量が100ミリを超えたらどの地域に危険があり、150ミリ、200ミリを超えるとどの地域にはどんな危険が想定されるのか、こうしたデータが完備しているのか。そして、そのデータをもとにして排水路の整備が進められているかどうかについてお尋ねをいたします。

次に、地震による津波に際しての避難の経路についてであります。地震による津波の危険は、海岸線の長い当市にとってはまことに苦慮されるところであり、浸水危険区域は広大な範囲となっております。特に北条海岸は津波警報等が発せられた場合、中央公園及び第三中学校が避難場所に定められておりますが、これは避難するためには北条海岸踏切、渚踏切のどちらかを選ばなければなりません。市では西口地区土地区画整理事業の進捗に合わせて橋上駅舎と自由通路の建設を計画しておりますが、駅構内のため有刺鉄線を張りめぐらした区域は、有事に際しての避難にも通過することはできず、老人や子供、さらには病人を抱える家庭等の不安を強く感じるものであります。

この問題は、昭和48年3月以来館山駅舎建設期成促進協議会の手によりまして、千葉鉄道管理局、国鉄首都圏本部等へ陳情活動を続けた結果、当時橋上駅の建設には2億円を要し、全額地元負担と言われ、実現できなかった経緯があります。その後、昭和55年12月に設立された館山駅東西歩道橋建設促進協議会が市民2万8,874名の署名をもって、昭和56年6月定例議会に際して、ここにいらっしゃる先輩、石井輝久議員、横溝議員らの紹介で館山駅東西歩道橋早期建設に関する請願書が提出され、採択されたものであります。以来10年が経過していきながらいまだに実現されないことは、市民の切実な願いと議会の意見に対して市当局が真剣な取り組みに欠けていた結果以外の何物と言えるでしょうか。請願では海の館山のイメージアップ、観光客、海水浴客を初め通勤、通学者の利便、駅前広場の交通緩和など多くの問題を解決したいと願う趣旨でありました。私はこの趣旨に加えて防災的観点から東西歩道橋の早期実現を市民のための市政に取り組む市市政に期待するものでございます。

そこで、質問の3、請願以来10年間に防災会議等の席で検討された経緯があるかどうか。あるとすれば、その結果どのような原因から保留されてきたのか。そして、その原因の解決に市はどのような努力をしてきたか。

次に、通告の第2点、ごみの搬出場所の指導についてお尋ねいたします。市民の日常生活と切り離すことのできないごみの処理については、これまでさまざまな角度から議会でも取り上げられてまいりました。清掃センター

が完成以来、1日100トンの施設能力を効率的な運転体制のもとに処理が行われております。燃えるごみ、燃えないごみに区別していた収集体制から処理区分が細分化され、不燃物は瓶類の日、缶類の日に分けられ、可燃物はごみの減量化、再資源を図るため、新聞、雑誌等の紙類とその他の燃えるごみにいわゆる分別収集が行われ、ごみ処理の苦労の実態を――その対策がうかがえるものであります。

しかしながら、この分別収集については徹底していない地区が相当数あるように思われます。当然のことながら定められた日以外に搬出された種類のごみは搬送されずに残されます。そのため幾日でも放置されるのが実情であります。言うまでもなく搬出までは住民相互で解決しなければなりません。ところが、ここにもう一つの問題がございます。町内の区域以外の者が車で通りながら置いていくケースがございます。もちろん収集日のことなどは全く考えていません。自分のうちの中にさえごみがなければよい。どこへ置いても料金を払っていれば、いずれ市が運ぶことだから何ら支障はない。このような考え方からであろうと思われますが、現地の住民にとっては非常に迷惑な問題でございます。朝早くあるいは夜間に付近の住民には気づかれない時間帯に放置されるものですが、仮に現場を発見しても、注意するには相当な勇気が要るものです。近所の主婦が搬出場所の清掃をしている姿はこの町内でもしばしば見受けられる光景であります。

毎年8月10日は「道の日」と定められ、また8月は道路を守る月間として全国的に地域の実情に即したさまざまな運動が展開され、当市においても警察署の協力を得て道路の不法占用や違法駐車等の指導等が行われました。もう一つ道路を占拠しているのがごみの搬出場所であります。こうした不法な搬出をなくすためには、地域の住民だけでは対処し切れなくなっているのが実情でございます。搬出場所はそのほとんどは道路際が利用されていますので、だれにも目につくことです。こうした地域に対して市ではどのような指導をしてきたのか。また、今後どう対処していく考えかお尋ねいたします。

次に、通告の第3点、茶室の利用計画についてをお尋ねいたします。当市の観光のシンボルとして城山公園は、館山城を中心にくじゃく園、博物館、

彫刻の径、万葉の径、梅園、茶室、日本庭園が完成し、公園の整備も完了し、いよいよ観光の拠点として、また市民の憩いの場として親しまれる施設となることが期待されております。これまでも議会における一般質問等の中で多くの同僚、先輩から質問、そして建設的な意見、要望が重ねられてまいりました。それだけに城山公園は市民の関心を集めてきた事業の一つであることは今さら申し上げるまでもございません。数年ぶりに郷里の館山に帰ってきた友人から、館山のまちの様子は相変わらずだが、城山だけは随分変わったという言葉聞いて、私も一昔前の城山の姿を思い起こして、なるほどとうなずいてしまいました。しかし、施設だけが完成すれば観光施設としての使命が果たされるものではありません。多額の予算を費やして生まれ変わった城山公園が、真に市民の憩いの場となり、観光の拠点となれるかは、今後に残された課題であると思います。せっかく完成した城山公園が市民にも観光客にも今以上に親しまれ、愛される公園となることを切に望むものでございます。公園の整備については、議会においてもさまざまな意見の中で整備が進められてまいりました。それだけにこの施設を観光的にどう生かすかについてもともに考えていく責任を感じております。特に多くの市民の注目は茶室にあると思います。

そこで、質問の3、城山公園の観光的な位置づけをどう考えているか。完成以来の茶室の利用の実態について、利用の回数、人数と今後の茶室利用の促進対策についてお尋ねをいたします。

以上で通告を申し上げました3点について質問を終わります。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、防災体制についてでございます。現在東海沖あるいは南関東大地震を初め災害がいつ起きても不思議ではない時代に入ったと言われておりますが、館山市といたしましては、館山市地域防災計画をもとにしまして、被害を最小限に食いとめるよう取り組んでいるところでございます。

御質問の小さな第1点目、防災ハンドブック配布後の市民からどのような反響があったかという御質問でございますが、防災ハンドブック作成の目的は、市民の皆さんに日ごろから防災に対する知識を身につけていただき、平常時、災害時の行動を認識しておくことが何より大切ということからでございます。こうした願いを込めまして防災ハンドブックを作成いたしました。

市民の反響につきましては、直接調査したことはございませんが、過日全戸配布以後、日常の心構えの大切さを再認識したという声が届いております。また、急傾斜地危険箇所、避難場所等につきましてはの照会がありましたことなど等から、関心を持って利用していただいているものと推測しております。今後も日常生活における家庭や地域の防災計画の役に立てていただきたいと考えております。

次に、小さな第2点目、台風・集中豪雨に際しての危険区域のデータは完備しているのかとの御質問でございますが、館山市における危険区域は過去の被害状況を参考といたしますと、床下浸水箇所4カ所、河川関係で3カ所、道路関係で9カ所、排水関係で5カ所が主なものでございます。また、地域防災計画の中で定める急傾斜地崩壊危険区域の――要するにがけ崩れです――指定を受けた箇所が1カ所、指定を受けない急傾斜地危険箇所が32カ所でございます。これらにつきましては、整備計画に基づきまして浸水箇所の改修を図るべく排水路等の整備を行っているところでございます。

次に、小さな第3点目、避難路として、駅東西歩道橋について防災会議での検討の経過はとの御質問でございますが、避難路につきましては、館山市防災会議で策定いたしました館山市地域防災計画で住民の安全確保のため、避難者の安全な経路に特に留意するように定めておりますが、個々の避難経路につきましては、住民が自主的に決めるもので、防災会議ではそこまでは検討しておりません。

また、自由通路の建設につきましては、御意見ありました御協力ありがとうございます。かねてからJR千葉支社等と協議を続けてきたところでございます。館山市基本計画の中では、平成6年度及び平成7年度の2カ年で建設する計画となっておりますが、今後もこの基本計画を踏まえまして、引

き続き関係機関と協議を行い、その実現を図りたいと考えております。

次に、大きな第2のごみ搬出場所の指導についての御質問でございますが、ごみの搬出場所に関しましては、町内会長さん等の非常な御協力をいただいているところでございます。また、町内会長等の要望に基づきまして現地調査を行い、十分話し合いの上場所等を決定し、この維持管理は地元住民によってなされております。館山市といたしましても、ごみの出し方、特に社会生活における個人個人の責任分担の再認識、分別方法等について、広報、チラシ、ごみカレンダー等により周知を図っております。今後も引き続きごみに対する意識の啓発と高揚を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第3の城山公園と観光対策についての御意見でございます。第1の観光館山における城山公園の位置づけについての御質問でございますが、さきの山中議員の御質問にもございまして、お答えしたとおりでございますが、城山公園は市民の憩いの場であり、学習の場であるとともに、貴重な観光資源であると理解しております。また、城まつりや各種団体等イベントの会場としても利用されておりますことは御案内のとおりでございます。これからも引き続きあらゆる機会をとらえましてPRに努めるとともに、観光振興のため活用してまいりたいと考えております。

なお、平成2年度に館山市立博物館へ訪れました方は5万 8,325人でございます。

大きな第3の小さな2点目の茶室の利用についての御質問でございますが、茶室「雁月庵」の利用実績につきましては、昨年度34件で600人、今年度は8月末現在で31件727人が利用いたしました。

次に、今後の利用促進対策につきましては、今年度市民の代表者による茶室利用促進検討委員会を2回ほど開催し、その中で多くの御提言をいただいておりますので、これらの貴重な御意見を十分参考にいたしまして、一層の利用促進を図るよう、これからのPR方法や運営方法につきまして見直しを行っているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君）　まず、防災対策でございますが、地震、集中豪雨に際してのがけ崩れの危険区域には、ただいま市長さんおっしゃったように、調査され、地すべりに対する対策は検討されて、付近の人には平素からその対応が指導されているものと聞いておりますが、排水路の機能が麻痺した場合、その危険性は少ないと言えるかもしれませんが、反面危険区域は広範囲で、避難命令、警報、注意が発令されることが非常に困難と思われます。満潮時あるいは干潮時によって多少異なりますが、今後は集中豪雨などに際しての被害調査と並行して冠水状況の調査を進め、災害の未然防止に役立つ資料とするとともに、排水路の整備計画の基礎資料とすることが大切かと思えますので、当局のお考え方をお聞かせください。

◎議長（福原　勲君）　建設部長。

◎建設部長（伊東　衛君）　降雨時におけますトラブルの発生場所については、それぞれの担当課におきまして危険防止あるいは現状の把握、将来の設計時の資料とすべく現場を見て対処するように心がけております。

なお、排水路の新設に当たりましては、現在時間雨量62ミリで計画、工事を実施しております。

以上でございます。

◎議長（福原　勲君）　鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君）　先ほど具体的に例を申し上げましたが、昨年9月30日の豪雨では、館山測候所の観測によれば、降り始めてからの雨量は199ミリメートル、1時間に36.5ミリメートルを観測したと伺っております。しかし、この雨量は台風時の2分の1以下と言います。例えば今年14日の九州地方を襲った台風17号では、佐賀県地方で降り始めてからの雨量は400ミリメートル以上が予想された地域もあり、また1時間に129ミリメートルと非常な豪雨が観測された地域もございます。この規模程度の台風が当地を襲った場合は、市内の各地は被害が続出することは火を見るより明らかでございます。地震の対策には、1人1人の平素の心構えと、的確な情報に基づく避難により被害を最小限にとどめる以外にはありませんが、水害に際してはこれらの対策以前に予想される冠水地域の原因を追及し、行政が河川の改修を

行うことにより被害を防止し、あるいはさらに被害を最小限度にとどめることができます。また、これを行うことが行政の責任であると考えます。

境川の上流に当たる代田川の状態については、現地の状況をよく調査し、境川は県の所管と存じますので、県当局の折衝を進めるとともに上流の代田川の改修と、さらには境川との合流点については、市独自の対策を検討されまして、早期に改修を進めていくことを要望いたします。

次に、北条海岸排水路の関係についてお尋ねをいたします。北条海岸排水路は、泥水の中にボックスカルバートを沈設し、市道の下に排水路をつくるという、当市では初めての沈設工法という工法で行ったわけでございます。既に 325メートルほどが整備されたと同っております。北条海岸町内の地域は海拔2メートル前後と地盤が大変低いために、雨が少しでも強く降ると、中村児童公園前を通る市道1091号線沿道では至るところで冠水があり、住民は非常に困っていたわけでございますが、市当局の御努力によりおかげさまでその後は冠水もなくなっており、非常に感謝をしておるところでございますが、何しろ完成以来日も浅く、大きな雨量を経験しておりませんので、若干の不安を残すものであります。

そこで、確認のためにお伺いいたします。北条海岸に設置していただいたボックスカルバートの容量はどのくらいか。また、どのくらいの雨量まで大丈夫なのかお尋ねをいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 北条海岸の排水路、これは中村公園、たばこの専売公社のあそこを通る道でございますけれども、これにおきましては内のり1.3メートルの四角いボックス——これボックスカルバートというんですけども——それを埋設しております。計画流量は1秒当たり 2,522立方メートル、1時間当たりの降雨量62ミリまで大丈夫で、排水する能力がございます。そんなことで62ミリまでは大丈夫ということですが、それ以上のものが降りますということは、これ多分にあると思いますけれども、普通の場合はこれで大丈夫であると私の方は考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） ありがとうございます。

次に、北条海岸からの避難路につきましては、東口、西口地区の整備に合わせて自由通路を建設するという方向で、市当局は熱心にJR及び国鉄清算事業団との交渉をしておることはよく承知しているところでございます。しかしながら、これだけ科学の発達した今日でも、地震についてはまだまだ予測することはできません。自由通路は避難路としての役割を有しておるという観点からも、なお一層の早期実現を要望いたします。

次に、ごみの搬出場所の管理について、各町内会長が場所を指定し、その届け出により収集しているわけでございますが、市の担当者、作業員は懸命な努力をされており、特に夏の間はごみの量も一段と増加し、その上に収集場所も多く、夏休暇返上しての炎暑の中での作業は、まさにごみとの戦争であったことと思い、感謝のほかはございません。

しかしながら、搬出場所の分別搬出が守られない地域、あるいは住民以外のごみの放置は、決して市内の全域ではございませんが、それが繁華街であり、飲食街であり、さらに夏の観光地域であることを思うときに、文化都市、観光都市を目指す本市としては、まことに恥ずかしい限りでございます。直接的にはそれぞれの町内等で対策を講ずるべきことは言われるまでもございませんが、不法な搬出に対する監視がしやすいような対策をさらに検討され、市民に周知されることが必要かと思いますが、当局のお考えをお聞きいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） いわゆるごみのステーションの関係でございます。また、ステーションにほかから車等でばい捨てをしていくというような問題でございます。これにつきましては、この夏にも統一回覧等で市民に協力の要請をいたしました。ごみは自分の地区の搬出場所へということと、分別収集に御協力をということで、市民の協力をお願いしているところでございます。しかしながら、やはり御指摘のようないろいろの問題も事実あるわけでございます。そういうことで町内によりましては、ごみの搬出場所を若

干変えたという例もございます。これからも市民の協力要請、こういうものを市も繰り返し啓発活動をしていきたい、あわせてステーションの維持管理をしていただいております町内会の方々、そういう方々のお知恵を拝借しながら、これからよりよい、よりきれいなまちづくりを進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 先ほどの北条海岸の1秒当たりの排水でございますけれども、単位を間違えましたので御訂正をいたします。

「2.522立方メートル」と発言しましたけども、「2.522立方メートル」でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） しつこいようですが、ごみのことをもう少し聞きたいと思います。

地域住民以外のごみの放置は、うっかり注意でもすれば、これはけんかは避けられないのが実情でございます。もし発見した市民からの通報があった場合、法令または条例等により罰則等の規定があるかどうかをお尋ねいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 条例等の罰則があるかという御質問でございますけれども、ごみをみだりに捨てるということになりますと、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、こういう法律や道路等の関係法令にあります、いわゆる投棄禁止によりまして罰金、罰則の規定があるわけでございます。しかしながら、ごみの搬出場所にばい捨てで置いていくという行為につきましては、これらの法律の規定、いわゆるみだりに捨てるというようなことにはならないんじゃないかということで、この罰則等は適用することが困難じゃないかというふうに考えております。

また、館山市の廃棄物の処理及び清掃に関する条例によりまして、可燃物、

不燃物を別々に区分して所定の場所に集めるなど市長の指示する方法に従わなければならないという市民の協力義務があるわけでございますけれども、これについては罰則はございません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 条例があって罰則がないということは、これは言ってみたところで、この現状のまま、知らなかったと言えはそれまでの話で、公然とよその地区であろうと何であろうと、それが続くということにもなるかと思います。実際に注意して、相手が済みませんと謝ればいいですけども、実際には居直るやつもおります。当然そこでもってけんか覚悟でもって注意しなきゃならぬという、地域をきれいにしようとするには、そのようなやはり覚悟も必要かと思います。しかし、これは改めて簡単に言えば、市民のモラルの問題というふうに思うかもしれませんが、市の方では一層これをやはり市民に守るように、そういうよその地区に出さないようにひとつ御指導を要望しておきたいと思います。

続きまして、茶室利用の状況については、ありがとうございました。これただいま利用人数について御答弁をいただきましたが、参考までに市民の利用と市外からの利用についてをお尋ねいたします。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

平成2年度は市内は32件で572人、市外は2件で28人でございます。平成3年度8月末までの調査でございますが、市内が30件で692人、市外が1件で35人。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 次に、茶室利用促進検討委員会の提言をもとに見直しをされているそうですが、現在の館山市では一定の期間続けられているイベントは、イチゴ狩り、花摘み、ふれあい市場等になっております。私今般夏に新聞等で報道を見ましたところ、やはり海を売り物の観光である千倉

海岸におきまして観光客にスイカを配ったと。これも初めてじゃなくて、何年か続いているそうですが、これはスイカを食いたいために千倉へ泳ぎに行くんじゃないかと思っています。やはり千倉へ来たお客さんに心、ありがとうございますというような、そういう心の触れ合いだろうと私は思っております。

そこで、城山公園も非常に観光客もふえておりまして、御承知のとおり私もでも上がれば汗をかきます。そのような中で観光シーズン中には茶室の前に縁台でも置いて、上がってきた方にお茶の一杯もシーズン中にサービスする、そのような接待を行う考えがないかどうかをお尋ねします。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） なかなか難しい問題じゃないかと思っておりますが、この茶室利用促進検討委員会でも鈴木議員さんのおっしゃるような意見も大分出てまいりました。しかしながら、具体的に考えてみますと、お茶をたてられる人を毎日観光シーズン中茶室に置いて、そして絶えず用意をしておくというのはなかなか難しい問題だろうと思っております。そして、現在今そのような御意見に対してお答えできるのは、市の大きな行事があった場合、例えば今度行われます城まつり、そういうようなときに特にお願いをして、いつでもそこを訪れた方にお茶を提供できるというようなこともやらどうかというような意見も出ております。現在第4日曜日——日曜日は割合に観光客が多いので、城山へ上る方が多いだろうということで、館山市の茶道連盟にお願いをいたしまして、9時ごろから夕方までお茶をたてていただいて、そして通りがかった方に入っていただいてお茶を提供する、ただし、やっぱり実費は300円いただく、こういうようなことになっておりますけども、そのようなことも行っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 教育長さんの御返事は、高尚なお茶をたててということでございますが、私の言うのは、例えば抹茶をやって、もう少し簡略にやるということは、それこそお茶をたてられますと、今度はかしこまって

こうやりませんといけませんので、そういう意味じゃなくて、上がってきた方に気楽に、抹茶なんか安いですよ。あれをかき回して、そして、はいとやれば、そういうようなことを私提案したんで、また今後ひとつ御検討を願いたいと思います。一々上げてお茶をと、こうじゃなくて、縁台でもやってやるという、ただ普通の一般のお茶のような感覚でやったらどうかということをお願ひしたわけでございます。

それと、いま一つ要望いたしますが、きのうから山中議員の質問、またいろいろの同僚議員あるいは先輩議員の質問もございましたけども、城山を上がるということは、非常に、若い人は問題ございませんが、年をとった方、いろいろあろうかと思ひます、観光客は。そこで、ひとつこれは要望でございますが、電気自動車等を――これは経費もかかることでございますが、そのようなことでひとつ御検討をお願いして、質問を終わりたいと思ひます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 以上で17番議員鈴木忠夫君の質問を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願ひます。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 10番目の質問になりまして、私が通告いたしました総合病院の問題、さらには下水道の問題、富士ディーゼルの跡地の問題については、それぞれ同僚議員から質問がございまして、ある程度の市の態度も明らかにされたわけでございするけれども、私はこれらの質問の上に立ちまして、さらに深めて市長の所信をお伺ひしたい。率直な考えとして、質問するに当たりまして、これまでの質問の中で、市長は政策、方針については誤りはございませんけれども、しかしながらそのかじ取りについて、本当に福祉または公共下水道について間違いなくやっているかどうかということになりますと、どうもあやふやな点がございまして、この2つの点については館山市にとっては長い間の懸案事項であつたし、今の時点で実施しなければ、これは大変なことになるわけでございますので、事情がどうあらうとも、ひとつ実現をしてもらいたいと、そういう観点で私は質問を重ねますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

まず、第1番が総合病院の建設と第2次医療機関の充実について通告したわけでございますけれども、この点については、斉藤先生の質問に答えられておったわけでございますけれども、結論的に言って今までと同じ答弁でございまして、医師会等と十分に協議をして対処していきたい。これ以上出ない。これは私が議員に返り咲いてからもう10数人の方からの質問について、全く同じ答弁でありまして、もうそろそろ次あたりには具体的に出てくるかと思っても、全く同じ答弁でございまして、これでは議会で議員が発言することがどういうことなのか非常に疑わしいわけございまして、もうそういう時期は過ぎておるだろうし、ここで市長自身も総合病院の建設については、館山市民が非常に熱烈に要望しておることであるし、またそれを実現するということを公約に市長にも就任されたわけございまして、これが実現できないで今のまんま3年、4年と推移していった場合には大変な事態を招くわけございまして、このことだけは私は何としても避けなきゃならないと、こういうことで私は質問をしたいわけでございます。

まず第1点は、通告いたしましたけども、今度県で第2次保健医療計画というものを4月1日から5カ年計画で発足させたわけでございます。これはもう革命的な医療改革でございまして、第1次5カ年計画で12の医療圏を持っておったものを8つの医療圏に再編成をいたしまして充実を図るわけであったわけでございます。これが2月1日の中間報告の中におきましては、御案内のように館山、安房郡は夷隅と同一の医療圏になっておったわけでございます。私もこれは大変なことになるなということでもって、医療審議会の委員も知人の方が2名おりまして、日ごろからいろいろなそれらの問題について意見交換しておったものですから、これは何とかしてもらいたいと。大変なことになるということだったら、これはもう夷隅郡の方からも、安房の医師会の方からもかなりクレームがついておると。しかしながら、審議会でもって中間答申したものをひっくり返すということはほとんど不可能に近いんじゃないかと、こういうことを言われておったし、また私は医師会の幹部の方とも話し合った場合に、もう県が中間報告をして新聞発表してしまうと、ひっくり返すことはまず不可能だろうということを言われておったわけござ

ございますけども、そのまず不可能だということが、4月1日直前に出まして、安房郡だけは夷隅と切り離して従来どおり独立させるという答申が出たわけでございます。これはもうまさに千葉県のこれらの審議会の中でもって画期的な問題であって、これが最初で最後だろうと言われるぐらいの事態であったわけでございますけど、その中でもって安房は独立させるけれども、安房の第2次医療機関の充実を図っていかなければならない。これはもう特別扱いでやるんだということが、その修正の段階でもって意見として出されておった。これは委員の人から私聞いたわけございまして、そういうことでもって県の方もやった。したがって、県としては安房の医療圏を異例の措置をとって安房郡だけ独立させたわけでございますから、何としても第2次医療機関を確立させなきゃならないわけで、そのためには医師会の役員の方も言っておりましたけども、県は非常にこの安房の医療圏の独立のためには力を入れたいと、物心両面で応援したいんだということを言っておるけれども、現実的にこの受け入れについては、鴨川と館山の関係、そして館山がこれに対する対応が非常におくれておる。このことが解決されていかないと、県のせっきくの意向もむだになるんじゃないかと、こういうことが言われておったわけでございますから、この点をどのように考えておるか。

御案内のように、安房郡市でもって第2次医療機関があるのは、鴨川に1つしかございません。そして病院は館山には7つしかございません。鴨川にも7つでございます。同じです。あと館山にあるのは2次に至っては診療所でございます。病院じゃないんです。そしてこの第2次医療処置できるのを館山には非常に数が少ないんです。したがって、今までの国民健康保険会計を見ても、ほとんどの人が鴨川や君津へ行かなきゃ用が足りないという実態であるわけございまして、こうした中でもって館山市が第2次医療機関をつくるということは、もう非常に急務であるわけございまして、この点をひとつ真剣に考えてもらいたい。

そして、私は斉藤先生が言われたとおり、もう医師会と協議をしてこれに早急に対応しますということで、これはもう繰り返し何十回ですから、もうそれじゃ済まない事態だというふうに思いますので、再度この点について具

体的に取り組むか取り組まないか。そして、これはもう来年度予算の中でもやっていると、こういう方向を示してもらって、またそしてそうした形の中でもって市長も決断されまして、議会の方も全面的に協力し、市民の要望もあるわけですから、第2次医療病院としての総合病院を館山市につくる。これをやはりもう来年度の予算あたりから具体的に示してもらいたい。ちょうど予算編成時期の今でございますから、今を逃しますと、来年が再来年になってしまうという順送りになりますので、特に私はこの点を強調しておきたい。

それから、2番目には、医療センターの充実でございますけども、これは従来館山市が、斉藤先生も言われましたように非常に補助をして、あそこをつくったわけです。これは本間市長が市長になったときに、豊房の診療所との絡み、いろんなそういう問題等もございましたですけれども、あの医師会病院をつくって、全国的にも先駆けて、先進的な医療機関としてあれをつくったわけでございます。それがそのまま24年たっておるわけございまして、今では長狭の国保病院なり、富山、鋸南の国保病院、そして他市にありますところの国保病院等がかなり充実されて、あそこの病院自体もひとつ改築して、新しい時代に対応した医療機関にしたいという要望が市の方にもされておりますけれども、土地の問題とか、市との交渉が進まないままに——進まないというとおかしいんですけども、進んでいるんでしょうけども、実際には実現に至らないままに至っておるわけでございますから、この点はどの程度進捗されたのか、そしてこれからどうなるのか、その点について——この点についても多数の議員がこれまで何回も繰り返してきているわけでございますから、こころ辺でもって明確な回答を出していただきたい、これが第1点でございます。

第2点目は、公共下水道事業計画と終末処理場について御質問をするわけでございます。この公共下水道の建設については、私が昭和38年に議員に当選したときに既にもう公共下水道はつくらなきゃならないと、そして茂原がその時期にもうやっておった、また木更津も始めておったと、館山もやろうということだったんですけれども、とうとう館山は以来20年間取り組んでき

ただけれども、やっぱりその実現に至っておらずに今日に来てしまったと、こういうことでございますけれども、もうこれは実現しなきゃならないわけでございます。半澤市長も最後の仕事として公共下水道対策室を設置して、そしてこれまでに、昭和63年に基礎調査も完了し、そして平成元年には基本計画の策定もできたわけでございます。そして本年度に都市計画決定と事業認可が計画されているわけでございます。これを今年度じゅうに実現しないと、平成5年には事業開始はできません。そして平成5年、6年の2年間におきまして75億の予算を投入いたしまして工事にかかるということが出ているわけでございますけれども、これもあやふやになってしまうということになりますと、大変な事態になるんじゃないかというふうに思うわけでございますけれども、この点について今年度中に都市計画決定並びに事業認可ができるのかどうか明らかにしてもらいたい。

これは2点目の質問としまして、終末処理場として富士ディーゼル跡地が予定されていながら、あそこの土地を買わないということになりますと、終末処理場の場所が決定されないわけでございます。終末処理場の場所が決定されない中でもって、都市計画決定と事業認可が得られるのかどうか、この点を教えてもらいたい。

それと同時に、この富士ディーゼルの土地が日下先生との質問の中でもって、買うのは無理だろうということでもって経緯になっていますが、この次に質問しますけれども、富士ディーゼルの土地でもって、その周辺に買うということでございますけど、民家のあるところの周辺の土地買収1万坪が1年や2年でもって買収できるというふうには考えられないわけございまして、その場合にこの計画は大幅におくれるんじゃないかと思うわけございしますけれども、この点についてどのように考えておるのかお伺いしたい。

聞くとところによりますと、国は21世紀を目指して2000年、これから9年先ですね。これまでには日本じゅうの公共下水道を70%まで実施するということを発表しております。外国にも約束しています、内需の拡大の目玉として。その予算は300兆円と、国の予算の倍の予算を投入してやるんだという、とにかくたまげるような政策を出して、建設省でもって各市町村に今推進を依

頼していることは事実でございます。この国の歴史的に始まって以来初めてと言われる大型下水道工事を、外国にも国内においてもやるんだというこのバスに乗らなかったら、これから先館山は半永久的にこの公共下水道はできなくなるということになります。各町村が今一斉にそれでもってそのバスに乗っているわけでございますから、2年、3年おくらせてまいりますと、後からのこのこ出て行って、その国のやっている300兆円というんですか、国の予算の倍額を投入してやるというこの事業に乘れなくなってしまうんじゃないのか。こうなった場合には大変なことであって、これはこの1年、2年が勝負であるというふうに考えているわけございまして、この点についてはどのようにお考えになっておるのか、私は明確にしてもらいたい。

3番目には、富士ディーゼルの跡地問題については、日下先生との質問の中でもってかなり明確にされております。そこで、私はこの点について2点だけ聞きます。まず第1点は、全協の報告がなされたときには、どちらかというと富士ディーゼルの土地は買えないということを富士に報告するんだから了承してもらいたいという形でしか提案されておりません。私はその中でもって、いや富士ディーゼルの土地は買わなきゃ大変なことになりますよと、また同僚議員からも同じような意見が出たと思います。その意見は全く市政に反映されておらないようにうかがうわけでございますけれども、この点についてはどうなのか。

そして、そこでもって明確にしたいために2つ聞きます。1つは、平成2年の8月に富士ディーゼルの跡地の譲渡の申し入れを富士ディーゼルにしたわけでございますけども、どういう形でどういうふうにして譲渡してもらいたいということを言ったのか、これを明らかにしてもらいたい。

2番目に、それに基づいて平成3年の1月に県と協議をして、そして県に買ってもらう話をしたわけでございますけれども、そこでもって県の方は計画書を出してくれということを言ったわけでございますから、計画書を出せということは、県が場合によっちゃ買うということであつたわけでございますから、そのときに県は買うと言っているながら——計画書を出せと言ったわけですから、買うと言わなきゃ計画書を出せなんて言わないわけでご

ざいますけども、計画書を出せと言っておったにもかかわらず、それが6月に館山市のシステム科学に依頼した答申を持って県に行ったところが、断られた。したがって、これはオジャンだと、こういうことのようにございますけど、こんな話は私はないと思うんです。何かそこに落ち度と欠陥があったんじゃないか。それを明らかにしてもらわないと、この行政運営が私は大変なことになると思う。これはもう大きな問題だけに明確にしてもらいたい。県としてもやりましょうというのは、計画書を持っていったら、だめですと、こんな言うことないわけです。だめだったんなら、なぜその計画書がだめだったのか。だめな計画書をつくるようなことを――その計画書について市議会については何らの相談もなければ、一方的に言ってだめですということでもってこれらの事態が処理されるということについては納得できないわけでございまして、この点については明らかにしてもらいたいわけでございます。

4番目の通告質問としては、文化ホールの誘致を今されております。その中においてコミュニティ広場につくるということでもって県と交渉をしたそうでございますから、これは結構でございます。となると市役所の予定地がどうなるのか。今積立金を積んでおります。あそこは決定しておりませんけど、おおむねコミュニティ広場に市役所をつくるというところの方向できていたわけでございますから、転換するわけでございますから、新しい土地を見つけなきゃなりません。富士ディーゼルの跡地なんかというのは、私は最適だというふうに思うわけでございます、一つの例として。ということはどうなのか。また、富士ディーゼルの跡地でなくてもほかに用意する考えがあるのか。それで、そのことについて対応を始めようとしているのか始めているのか明らかにしてもらいたい。文化ホールが建ったらやるんだというようなことじゃなくて、もう文化ホールは建つんだという形でもって県と交渉しなければ、そういうあいまいなことじゃ県だってなかなか館山市へ持てきません。不退転の態度でもって県に臨むということが大事であって、そういう面ではこの文化ホールをコミュニティ広場にできるという前提の中で、それじゃ市役所はどこにつくるんだということぐらいは明らかにしなければ、議会に対しても執行部としての責任を果たせないというふうに思うわけでご

ざいますので、その点を明らかにしていただきたい。

細部にわたりましては、再質問の中でもっていたしてまいりたいと思いますので、おおむね基本線について御答弁をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の病院の建設問題でございますが、問題を整理いたします。御質問では、館山市によって総合病院を建築するかのような御質問でございますが、そういう館山市の案というのは今までどこにもないはずでございます。要するに医師会病院をどのように充実していくかという線で歩んでおりますので、そういう面からお答えいたします。御了解いただきたいと思えます。

この大要は、昨日の斉藤議員の御質問にお答えしたとおりでございますが、医師会病院改築に最大の問題でございました用地の確保におおむねの目途がついた、こういうことから、これから具体的な段階に進んでいくと考えております。

館山市の基本計画に掲げてございます救急医療から高次医療を含む医療体制の整備を確立するためには、安房医師会病院の存在と機能の充実が不可欠でございます。安房医師会及び関係団体等と協議を深めながら実現に向け協力をしてまいる所存でございます。

今御意見の医療圏の問題につきましては、仰せのとおりでございます。この問題、県の方から発表ありました後、館山市及び広域市町村でも安房地域としては、安房、夷隅を一体とした医療圏は納得できないと、これは医師会とも十分協調の上、修正お願いする意見を出したのでございます。そのとおりになったことを非常に喜んでおります。

次に、大きな第2の公共下水道事業計画と終末処理場の建設についての御質問でございますが、今後終末処理場の位置を早急に決め、さらに都市計画決定及び事業認可の手続を進めたいと考えております。

なお、全体処理計画面積 1,197ヘクタールのうち、平成11年度末に供用を

予定しております第1期整備事業面積約100ヘクタールにつきましては、計画しております整備事業期間内で一層の努力をしまいたいと考えております。そして、予定どおりの供用開始を目指しております。

次に、大きな第3、富士ディーゼル跡地利用についての御質問でございますが、この御質問内容につきましては、昨日の日下議員にお答えしたと重複しておりますけれども、お答えいたします。平成2年8月に文書にて譲渡の申し込みをした内容は、公共下水道等の都市施設用地として譲渡をお願いしたものでございます。

また、平成3年1月に県と協議した内容についてでございますが、この時点での主な交渉先は県企業庁でございます。企業庁と協議する中で、企業庁事業として取り上げるには、具体的な案がなければ検討できないと、こういう旨の指摘がございましたので、富士ディーゼル跡地利用計画案をコンサルタントに委託したところでございます。

コンサルタントから出されました内容についてでございますが、この時期には既に県の5カ年計画の骨子案が示されておりますことから、企業庁と協議する中で、県の計画に位置づけられましたインダストリアルパーク計画に関連した企業の研修保養施設及び海洋レジャー施設等となっております。

さらに、利用計画案に下水道終末処理場がない理由でございますが、同案が採用された場合には、終末処理場は北側の平久里川沿いの土地を含めて計画する予定でございました。

次に、大きな第4、市庁舎の土地問題についての御質問でございますが、県立地域文化ホール誘致につきましては、議会や市民の皆様方の御協力を得て強力に運動しているところでございまして、実現するよう心から願っているところでございます。御協力ありがとうございます。したがって、館山市庁舎の土地問題につきましては、誘致運動の推移を見ながら検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） まず、第1点の総合病院の問題でございますけど

も、市長はそういう考えもなければ、そういうことはないということでございますけども、大変なことですよ。この計画の中にもありますように、医療圏を夷隅と安房ですするという県の計画は、総合病院は鴨川にしかないので、したがって夷隅と館山を入れてやるのが一番いいということでつくったんです。だけれども、安房の地域に参りますと、館山を中心にしなければ、行政医療の中核というのはできないので、したがって館山、安房を独立させる場合には、館山に総合病院をつくらないと、第2次医療圏というのは成立しない。今の場合は鴨川を第2次医療圏の中心にすれば、鴨川は端ですよ。館山だとか富浦とか、こっちからは大変なんです。そのために県の医療審議会の中では、総合病院を館山に建ててもらって、館山を中心とした医療圏、安房の医療圏をつくるんだということでやっているわけです。総合病院はないんですよ、一つしか。館山にはないんですよ。ここにも出ておりますように、計画の中に。医療圏の中心にはなれないんですよ。大変なことですよ、それは。県もさっき言いましたように大変な決断をして、審議会の方針をひっくり返して、この安房を独立するためにきちんとしてもらうと。一番簡単なことは、館山でもってその気が、今市長の言っているような気がなければ、鴨川を中心にすればいいんですよ。館山でも鴨川へ行くことになるんですよ。鴨川を中心にさせることになんですよ。こんなことが今のよってたって館山の位置と歴史からできるかどうかということです。県もその点については納得して、ああ館山でもって医療圏を中心にしてやらなきゃいけないんだと、大変だろうけれどもということで市町村からの陳情、医師会からの陳情、ああやっぱし館山がそれだけ熱意を、やるんだといって、総合病院は知りませんじゃ、これはもう大変なことになるわけでございまして、そうはいかないんです。この点についてはどう考えておるのか、まず聞きたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 県の安房医療圏の設定、これは辻田議員と同じく、非常に喜んでおります。ただ、県のその医療圏の設定の条件の中に、安房地域は病床数が現在でも人口割で非常に多過ぎる。今後も病床をふやすわけに

はいかないんだ。これは明示されておりまして、安房においては、これから病院の病床数をふやすことは一切認めないということをはっきりと打ち出されておる。また、私たちと医師会との話し合いでも、これから新しい総合病院を新設してと、物すごいお金をかけて、総合病院新設するだけの力は、医師会にも今の市町村にもない。今の医師会病院を拡充して、そうしてそういう機能を持たしていくのが最高の行き方であると、こういうところでぴたと一致しているわけなんです。そういうことで御了解いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） その見解は少し訂正してもらいたいと思っているわけなんです。病床数の問題は、形式的には問題になります。というのは、安房郡市には 3,177の病床があるわけです。これからいくと、斉藤議員との質問の中で 400ぐらいオーバーしているということでございますから、しかしながら内容を見ると、精神病の病床が館山でもって 339、鴨川でもって 176、三芳でもって 353、合わせて 868あるんです。これを差し引くと、400足りなくなっちゃうんです。これは形式的には一般も精神病も同じだけど、精神病というのは特殊であって、房州は暖かいから特別精神病が多くあるから、その件数からいくとオーバーしているだけでもって、鴨川には一般病棟というのが 1,521、館山は 980しかないんですよ。それから精神病を外すと、館山は 500になっちゃうんですよ。ベッド数は少ないんですよ、非常に。これは政治と行政力でもって、精神病はもう別にしてくれと、そうでないと医療が混乱しますということになれば許可になるというんです。これは専門家に聞いたんですから、当然ですよ。ここら辺はだれかが病棟数云々というようなことを言っておるものですから、確かに病棟数は一律になっておりますけれども、そういう内容のあること、だから館山は医療がおくれているんですよ。実際に精神病の病棟をとると物すごい少ないんですよ。県平均よりも全国平均よりも少ないんです、現実的に。これを真剣に考えてもらわなきゃいけないということでございますので、これはもう論議のあれになりますので。それでなぜそういうのが起きるかという、とにかく館山市の高齢化

というのはすごい進んでいるわけでございます。もう18%を超えているわけです、65歳以上の人たちが。そして、がんと心臓と血圧による3大成人病の死亡率が非常に高いんです。平成2年じゃ市の統計からいくと、359人死んでいるんです。全国平均でもって4%、県平均で3.2%です。館山市は6.5%なんです。これはもう高齢化社会になっているからです。同時に総合病院がない。したがって、こういう中ではやはり総合病院に対するとおりの要望というのは、そう思うのは当然なんです、死活問題なんですから。そういう人は全部鴨川へ行っているんですから、君津へ行っているんですから、館山で何とかできるようにしてくれという、斉藤議員も言われたとおり、それに応えなければ今ならないんですよ。それで、高齢者人口は館山はこれから15年急速にふえていくわけですから、そういう中でも私はこれは真剣に考えてもらいたい。そして、市民の意識調査の中でも、病院をつくってもらいたいと、これはもう一番高いですよ、この中に書いてある、安房郡市の中でも、高齢者社会を迎えておりますから。

それで、次に移ります。公共下水道の問題について、終末処理場の位置が決定なくて、事業認可というものは認可されるんですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 終末処理場の位置が決定いたしませんと、これが必要条件でございます。ですから、無理でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） そうすると、今市長が言いましたように、いろんな共有用地だとかを買収していく。確かにこの事業計画には75億の予算でもって平成7年までやるというふうになっております。その計画については、事業認可は本年度あるということが前提になっております。これが狂うと、この計画書ができないわけです。市長が言ったそれはわかるんですよ。だから、終末処理場がないと事業認可がおりない。事業認可がおりなければ国や県の補助金もおりてこない。館山市だけでもって75億の予算を捻出するのは大変なことになります。と同時に、先行取得の土地取得はできるんだろうけ

ども、事業認可がおりない中でもって事業を行おうとしても、かなりの制限が出てくるわけでございます。これは大変なことですよ。そして、富士がだめだった場合には、北側にする。民家ですよ。1軒や2軒じゃありませんよ。1万坪近くを買うには、相当の用地を買わなきゃならない。ああいうものの土地については非常に難しい。1年や2年でもっていくような状況ではありませんじゃないですか。富士ディーゼルの周りには住宅はありませんから、そう問題ないんですけど、ほかはみんな農業をやったり、住宅があったり、大変なんです。それが今部長がおっしゃったように、位置決定がされなければ事業認可はおりないということになったら、ずるずるべったりいっちゃいますよ、このまんま。私はそれはもう絶対に――今回は私も市長にもう全面的に協力しますので、これは年度にやって、国がやっている大型プロジェクトにのって、国がやろうと言っている中でもって、これにのらなきゃ大変でございまして、私も昭和38年に議員になって以来20数年か30年近くの懸案でございまして、ようやくここまでこぎついて、半澤さんも引退するときに、公共下水道だけはこれだけついたから何とか実現してもらいたいという、一番叫んでおった一つでございまして。それだけじゃございせん。館山市に公共下水道がないから、大型の工場、マンション、ホテルをつくろうといっても、なかなか規制があってできにくい。公共下水道ができればそういうもの来れるという条件があるんじゃないですか。子供や何かも館山へ行くと、公共下水道がないからくみ取りの便所だと。館山市でもって1万数軒に及ぶところの世帯数のくみ取りをやっているんじゃないでしょうか、観光都市として。公共下水道やれば、80%近くが全部水洗になるわけですよ。そうしていかなければもうならない時期に来ているわけでございまして、この点についてはひとつ真剣に考えてもらいたい。

そうなってくると、富士ディーゼルの土地について、これはもう買うとか買わないという問題じゃなくて、やはり買わなきゃいけないんじゃないかと思うんですけども、その点についてはどうなのか、再度お聞きしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 昨日も御説明いたしましたけども、現在の段階では市では無理だということでございます。

◎議長（福原 勲君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 現在の段階で無理だというんですけども、私はできと思っていますよ。きのうも日下議員の質問に対して、締めくくりでもって、庁内で十分検討した結果、財政上無理だと、こういう結論を下しました。時間がないものですから、やめられました。とんでもないことですよ。それは庁内でどのような討議をしたんですか。だれとだれが参加したんですか。議会の意見は聞かないんですか。庁内の決断と議会の決断とどちらが優位に立つんですか。議会制民主主義ですよ。議会を通さなければ予算も一銭もつかないですよ。そして、こうした決定を庁内でできなかったら、私はいろいろ案ありますよ。下水道をつくるにしたって、1万坪は必要なわけですから、すぐそれ使えばいい。きのうも出ておりましたように、あの都市計画道路の前の幅広げる、前の方の土地も若干必要になる。富士ディーゼルにしても、後ろと前を買われちゃって、中だけ置き去りになったら大変なことですから、一括買ってくれというのは当然でしょう。文化ホールを市役所をつくる予定地に建てれば、市役所つくらなきゃいけない。それだったら向こうへ持っていけば、土地が足らないぐらい。消防署だって交通渋滞の中でもって移転しなきゃならないという問題もある。医師会病院だって土地がなくて困っておる。いろいろとあるんですよ、それは。その点について議会と、議員の多くの人とひざを突き合わせて話し合う気はないんですか。たくさんありますよ、みんな。私は私なりに持っておる。また、28人の議員はそれぞれ私が聞くところによると、それぞれのいい案持っています。確かに150億という金は市の予算に匹敵するかわかりませんが、簡単に言って10年間の月賦で買えば、1割の予算を節約すれば買えるじゃありませんか。今100億ぼんと出せというわけじゃありませんから、銀行でもどこでも金貸してくれます。そして、それはもうそういった公共用地に使うものはたくさんあると思うのです。それらについて議員の意見も聞かずに、庁内でやりましたから、結論出ました。何ですか、それは。議会軽視ですよ、それは。議会

の意見は聞いてもらえないんですか、あるんですよ。このことによって私は、これでもいいですよ。そのかわりあそこに公共下水道ができて、今年度事業認可になって進めばいいんですけども、それが進まなかった場合にはだれが責任とるんですか。大変なことになりますよ。今この時期に公共下水道をやらなければ、国の施策、周囲の状況からいって、チャンスを逃したら、またこれから10年、20年先になるかわからないんですよ。富士ディーゼルがああいう形になったことは非常に残念である。残念であるけれども、また公共下水道という立場になると、幸いしてくれたようなもので、このチャンスを生かさなかったら、私は大変だと思う。市長ももうちょっと議会と話し合ってやってもらいたい。庁内だけでもってこの問題を処理してもらいたくない。そうでしょう。この点についてどのように考えておるのか私はお伺いしたい、大変な問題ですから。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 富士ディーゼルの跡地を購入するとした場合の財政の状況でございますけども……

（発言する者あり）

◎議長（福原 勤君） 暫時休憩いたします。

午前11時29分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数27名、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁願います。

庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 午前中の富士ディーゼル跡地利用問題についての御質問でございますけども、この問題、実測10万4,147平米、坪数にしまして実測3万1,504坪、こういう館山市にとりましては非常に貴重な土地でございます。財産でございます。議員の皆様方からもこの跡地を有効に利用すべきだと、積極的な御意見をちょうだいいたしまして、ありがとうございました。9月末までに返答が欲しいと、こういう向こうからの要請でございまし

たけども、今までの経過を踏まえ、せっかくの有効利用を考えるには、より時間が欲しいということでございまして、富士側に今年いっぱい、12月いっぱいまで再度返答期間を延長していただきたい。その間市と議会と十分密接な連絡をとりながら有効利用を考え、お答えしたいということで、向こうに再度今年いっぱいの返答期間延長を申し出たい。その間に皆様方とこの問題を詰めてまいりたいということで御理解をいただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 年内いっぱいということでございますから、その中で十分都市計画に基づいた事業が推進できるように検討していきたいと思っていますので、この件については一応終わります。

最後の1点だけでございますけども、文化ホールと市庁舎の関係なんですけれども、ちょっとあいまいだったものですから、具体的に聞きたいんですけれども、市庁舎の建築については、積み立て条例に基づいてかなりの額を積み立てたわけでございますから、そろそろ土地の確定の段階へ入っていだろうというふうに思っていますけれども、これについては当初従来ですと確定とか云々というのはありませんでしたけども、おおむねコミセンのところがある程度暗黙の了解で進んでおったんですけども、これが文化ホールということになったわけでございますから、そうなってくると新しい——新しいというか、確定の土地をあれ以外に見つけなきゃいけないということですけども、その作業に入ったか入らないか、その点だけ1点お伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 現在のところ検討には入っておりません。

◎26番（辻田 実君） 以上で終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質問を終わります。

次、2番議員増田基彦君。御登壇願います。

（2番議員増田基彦君登壇）

◎2番（増田基彦君） 私全くの1年生でございます。まだ修行も積んでお

りません。先輩の先生方のお許しと御厚情によりまして通告質問の機会をお与えくださいまして、本当にありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。

さて、私は通告をいたしました2点についての御質問をさせていただきます。第1点といたしまして、亀ヶ原（川間、横峯）地区水害対策でございます。第2点といたしまして、農家の高齢化に対する支援策についての2点でございます。よろしくお願いいたします。

第1点の亀ヶ原（川間、横峯）地区水害対策についてでございます。この質問につきましては、3月の定例議会におきまして先輩の神田先生が通告質問されました。その後の経過等を踏まえまして質問させていただきます。川間、横峯地区は三芳村に隣接し、平久里川に沿って住宅が建ち並んでおります。平久里川は一たび大雨が降りますと、古老の言われる気違い川となりまして、短時間に洪水となり、付近一帯、人家、田畑は濁流の海となります。一昨年8月1日の集中豪雨は各地、特に房総南部地方を襲い、莫大な被害を与えました。当川間、横峯地区も被害をこうむりました。その被害の模様をNHKニュース等で全国に放映されたことは、皆様も御記憶のことと思います。川間という地区は館山市の東北に位置しております。現在亀ヶ原川間地区を流れている平久里川は、江戸末期に形成されたと年寄りから聞いております。それ以前は三芳村郵便局あたりから二またに分かれておりまして、川間地区の背後、東側でございますが、もう一本の平久里川が蛇行し、府中へと流れていったらしいとのこと。でありますから、亀ヶ原川間地区は平久里川の土砂が堆積して形成されている中洲でございます。すなわちデルタ地帯なのであります。したがって、当地は軟弱地盤であり、ちょっとした大雨でも水位が高くなり、河川の流れは三芳村郵便局のあたりから並行して走っております和田－丸山－館山線の道路を安易に冠水して、あたりの人家、田畑に水害を与えているのであります。

当亀ヶ原川間、横峯地区では、冠水は床上浸水は戦後3回ありました。床下浸水または田畑の冠水はたびたびありました。大雨のたびごとに川間、横峯住民はもとより、区民、消防団の人たちが河川の増水を恐怖のためかたず

をのんで橋の上から監視しているありさまでございます。なお、昭和48年、平成元年の2回にわたりまして関係当局に陳情書が提出されてございます。川間、横峯地区住民の生命と財産の安全を確保できますようお願い申し上げます。次第でございます。水害の恐怖から解放されますことは、川間、横峯住民の皆様40年来の悲願でございます。住民の皆様の心情をお酌み取りいただきまして、よろしく御配慮のほどお願い申し上げます。

続きまして、第2点、農業の高齢化に対する支援策についてでございます。現在農業の現状に対し深刻な危機感が持たれております。農林水産省では農政の抜本的な見直し作業が進められております。農水省では種々の施策を講じてきましたが、担い手の確保、農産物の安定的生産、そして供給について思うような成果が得られず、不安が高まってまいりました。このままでは21世紀に農業が産業として成り立っていかなくなってしまう。そこで、従来の枠組みにとらわれず、総合的に農業を、また農政を幅広く見直すことが必要かと思われます。

また、農水省が8月30日に平成2年度の農業調査結果を発表いたしました。それによりますと、総農家数 378万 9,000戸、農家は自給的農家と販売農家に分かれるんだそうですが、自給的農家は約2割、これは自分のところで生産したところは自分で食べるというのが自給的農家なんだそうです。販売農家といいますのは、10アール以上耕作し、15万以上の現金収入、売り上げがあるということが販売農家ということで区別されているそうでございますが、販売農家が8割近くを占めております。販売農家のうち後継者のいる農家は1割を切って7.4%でございます。

また、同日発表されました農業就業動向調査によりますと、平成2年度の新規学卒就農者は1,800人だそうです。大手自動車メーカー1社の新規採用にも及ばないと言われた平成元年の2,100人よりさらに300人減ったことになります。そして、最も期待しているUターン就農者も昭和50年代後半には三、四万人いたそうでございますが、昨年は6,000人に減ってしまいました。農業就農者の年齢別割合でも29歳未満がたったの6%、そして65歳以上の高齢者が33%、約3分の1だと言われております。

一方、現在畑作農家等では深刻な労働力不足に陥っております。原因は若年者の不足、そして高齢化によるものだそうです。現に畑作作付の中止や縮小で昭和60年度から平成2年までの5年間で、キュウリ作付農家が17%、キャベツ作付農家が13%の減少をしているそうでございます。このような危機感の中で都市サラリーマン等農外からの新規参入者を支援するため、農水産省は平成4年度から新たに制度資金を創設し、農外からの参入者を金融面からの支援を決定いたしました。一方、農業後継者不足と高齢化に悩む都道府県や市町村が独自の若者引きとめ作戦や新規参入者対策を実施する動きも出ております。農家の厳しい環境につきまして、ただいま説明申し上げましたが、農林水産省のこのままでは農業をやる人がいなくなってしまうという危機感が、今回の農政見直し作業に着手する直接の動機であります。

館山市の農業、このままでは農業をやる人がいなくなってしまう。同じだと思います。市の農政の窮状に対しどのような施策、または支援策があるのですか。また、市農政の見直しの予定はございますか、お伺い申し上げます。これは次の機会にまたお伺いするわけでございます。今回はどのような農家の支援策があるか、そのみお伺いする所存でございます。市農政の格別の御配慮をお願い申し上げまして、御質問を終わります。御答弁によりましては再質問をさせていただきます。よろしくお願いします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの増田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、住民生活に直接影響を及ぼします水害対策、特に長年の問題でございます亀ヶ原地区の水害対策についての御質問でございますが、この地区は県が管理いたします2級河川平久里川の流域にありますので、館山土木事務所に照会いたしましたところ、現在平久里川全体改修計画立案のため現地測量を実施しており、あわせて同地区局部改修の設計を業務委託し、検討中とのことでございます。

なお、本年度は応急措置として、はんらん箇所の土のう積み、また流水を阻害していた樹木の伐採を既に実施しております。

岩崎橋かけかえにつきましては、地形測量が完了し、道路線形等を検討中と伺っております。

館山市といたしましても、住民の生命、財産を水害から守るため、早期整備に向けまして引き続き県に要望してまいります。

次に、大きな第2、農家に対します支援対策についての御質問でございますが、館山市の農業は基幹産業として重要な地位を占めております。水稻、園芸、畜産を中心に地域の特性を生かした農業施策を推進しているところでございます。

今年度の補助事業の主なものといたしましては、農地の汎用化及び集団化等の高度利用を図るため沼地区、布沼地区に基盤整備事業を、栽培技術の改善や流通出荷体制の整備等として花卉の共同栽培施設の建設事業を、さらに館山市農業協同組合神戸支店に予冷施設と集出荷場の建設事業等を進めているところでございます。

これからも生産者、各関係機関と連携を密にいたしまして、農業経営の近代化、安定化を推進し、農業全体にわたる生産性の向上に努めてまいりたいと存じます。

以上で終わります。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） どうもありがとうございました。

河川の改修、橋のかけかえ計画等検討中であるということでお伺いしたわけでございますが、いろいろ御配慮いただきましてありがとうございました。

ただ、計画はあくまで計画でございまして、相手のあることでございます。橋のかけかえとか何か計画があるようでございますが、橋のかけかえもやはり人家にかかったり、また道路の拡幅にしろ、計画はあくまでも計画であって、いつ完成するかというのは、見通しは立っていないわけでございます。また、台風も来ております。また、あす大雨になるかもわかりません。はんらん箇所は限られた場所だということで1カ所でございますが、先ほど御答弁の中にございましたように、確かに土のう等積んでございます。こんなこと言うと大変失礼なんでございますが、天気のときの土のうならば大変役に

立つような土のうでございしますが、一たん洪水が来たときの土のうとして役割を果たすかと、ちょっと疑問でございします。そんなようなわけで、そのはんなん箇所だけでも早急に対応していただきたいと思いますが、御質問いたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 御指摘の場所については、非常に緊急対応しなくてはならない箇所と見受けられますので、県土木出張所に早急に対応するように申し入れたいと思います。その際用地取得の申し出が県からありましたら、ひとつ御協力くださるようお願いしていただければありがたいと思います。

以上でございします。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） どうもありがとうございます。一生懸命やりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、農業の方へ移りたいと思います。農家の担い手でございします農民でございしますが、内外圧のため夢が持てなくなってきました。市農政の温かい御指導をお願いするわけでございしますが、各事業におきます補助率等はどのようになっていますでしょうか。国とか県、また市の補助率等おわかりでしたら御説明願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） お答えいたします。

まず、沼、布沼地区の基盤整備事業でございしますが、これは国、県、市の補助を合わせまして75%でございまして、地元負担が25%ということになります。それから、布沼地区の花卉共同栽培施設、これ鉄骨ハウス設置事業でございします。それと、館山市農業協同組合の神戸支店に建設いたします真空予冷庫、集出荷場の事業関係でございしますが、これは県、市合わせまして2分の1の補助ということに相なります。

以上でございします。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） ありがとうございます。これからもよろしく願
いいたします。

先ほど来申し上げているように、農家の高齢化がどんどん進んでおります。
現在の農業をやっておいでになります就農者に頑張ってもらわなければいけ
ないわけですが、市といたしましても何とか今以上の御支援を願え
ないかと思うわけですが、補助率等のアップはできないでしょうか。
お願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 補助率の増額ということでございますが、この
率のアップにつきましては、現在安房農林業振興協議会を通しまして県に要
望しているところでございます。したがって、今後とも引き続き要望を
続けてまいりたいと、かように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） どうもありがとうございました。よろしく御尽力を
くださいますようお願いいたします。

農業も大変難しい岐路に差しかかっているわけですが、農業者は
弱者でございます。市農政の御理解ある御指導を今後とも賜りたいと思いま
して、よろしくお願いいたします。

以上で質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で2番議員増田基彦君の質問を終わります。

次、5番議員宮沢治海君。御登壇願います。

（5番議員宮沢治海君登壇）

◎5番（宮沢治海君） 私は、今次定例会に提案されました議案の審議に先
立ちまして、既に通告いたしました4点につきまして質問いたします。

なお、2日間にわたりまして11名の先輩、同僚議員によりそれぞれの立場
より質問がなされました。これにより市当局より積極的、前向きな御答弁を
いただいております。私のこれからの質問が重複する点多々ございますが、そ
れだけ市民の問題点の意識、期待が大きいものと御理解をいただき、また数

々の解決すべき大きな課題を抱える中で、庄司市政の大きな期待を持ちながら私の素朴な質問を進めさせていただきます。

第1点目といたしまして、自然環境と調和したまちづくりについて伺いたします。私たち館山市民の多くは館山市を紹介する際、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、後背地の緑の濃さ、31.5キロに及ぶ海岸線の美しさを強調し、花と海と太陽のまちと紹介します。このことは空中より隣にある三浦半島と房総半島を比べ眺めた場合、歴然としており、三浦半島の開発のすさまじさと、その速さが見られるそうです。私たちは誇れる自然環境の中に現在はあると思います。

現在まで首都圏の中で誇れる自然の状態が維持できたのは、首都圏からの時間的な遠さ、また水資源の不足等の実に皮肉な負の要因に大きく負う結果であろうことは周知の事実であります。しかしながら、現在の館山は平成7年に向けて東京湾横断道路、東関東自動車道館山線の開通、そして南房総広域水道事業団による水の一部通水等の条件整備、また幕張新都心と連携し、新しい千葉県のアフターコンベンションの適地、東京湾入り口にあり、静かな海で、船舶航行の調整も図りやすい等の条件により、リゾート法の適用、インダストリアルパークの計画等、大きく変化が迫られていることも事実であります。館山市にとりましては、この変化の波に積極的に取り組み活性化に向けていかねばならないと考えます。しかしながら、何ら手だてを講ぜず、外から安易に持ち込まれる地域開発計画等を受批判に受け入れた場合、館山市の自然環境、文化環境や景観は損なわれ、スプロール現象により豊かさを実感できる生活環境は望めないと考えます。

私は自然環境と調和したまちづくりのためには、早急に現在の館山都市計画による用途地域指定を超えた広範な土地利用計画の策定を急がねばならないと考えます。保全すべき自然環境は条例等の網をかけ、開発を禁止し、保全して、活用する自然環境とは明確に区分した地域、良質な宅地開発を行い、住宅の誘導を図る地域、建築協定か景観条例の制定により計画的な景観形成を図る地域等、市民との話し合いのもとに規制力のあるゾーニングが必要と考えております。市当局といたしましては、館山市の誇る自然環境と調和し

たまちづくりについてどのように展開されていくのか、御所見をお伺いします。

また、現在までの自然環境の育成、開発の規制についての施策についてもあわせてお聞かせください。

次に、第2点目といたしまして、館山駅東口再開発事業についてお尋ねいたします。館山市は南房総の政治、経済、文化の中核都市であり、観光面においても一大拠点であります。交通手段の変化、モータリゼーションの進展等ありますが、年間219万の乗降客のある館山駅東口駅前には館山市の表玄関であり、顔であると同時に、南房総をシンボライズする大きな一つであると考えます。しかし、現実には駅前広場の狭さ、駐車場のないこと、とりわけ夏場の混雑等は、海洋性リゾートタウンを目指す当市にとりまして、決して満足のいく状態でないと考えますし、訪れた観光客も決して満足はしていません。館山市民の多くは駅周辺の変化を望んでいるものと考えます。まさにその期待は館山市で示されました館山市東口再開発事業に集中し、交通渋滞の解消、都市間競争に打ちかつ等の問題を含み注視されていると思います。昭和56年の都市計画案の原案作成以来10年の歳月を経ています。現在の状況はどのように推移しておるのでしょうか。なお、昨日市当局より積極的、前向きな現状に抱えている問題点への取り組み、また公平、公正なる立場においての再開発への熱意を伺い、私非常に感銘を受けているところでありますが、全体の再開発事業の完成までの流れの中で現状がどの時点にあるのかも含めましてお聞かせください。

なお、再開発事業につきましては、手法の問題、地権者の意見調整、権利変換等数多くの問題解決が必要であり、関係者、行政の熱意と公平、公正な取り組みのもとに長い年月が必要であることは十分承知しております。ちなみに木更津市東口における再開発事業は、昭和45年の発端より20年の年月を経て実現いたし、また最近の新聞によりますと、川崎市溝の口駅北口再開発事業につきましては、川崎市が溝の口駅前周辺開発事務所を開設したのが昭和46年、20年を経て本年11月に事業決定し、再来年には着工を考えている。また、三鷹駅南口では再開発ビルの建設が始まったが、これも昭和53年に基

本計画を策定して以来13年を経ての着工であるとありました。

そこで、お尋ねいたします。いずれの計画も長い年月と数々の紆余曲折を経てきておりますが、動きの中心は再開発ビルの建設が大きくかかわっています。館山駅東口再開発事業におきましては、昭和55年大店法第3条の申請がなされ、60年商調協結審において店舗面積 5,800平米が認められた館山中央ショッピングセンターがこれに当たると考えます。この第3条申請を提出しました株式会社日東交通、株式会社十字屋より第3条の取り下げがなされると聞きましたが、市当局といたしましてはこの第3条取り下げをどのように考えますか。また、第3条取り下げにより再開発ビルの建設が見通せなくなった折の館山東口再開発事業への影響、見通しについてお聞かせください。

次に、第3点目といたしまして、インダストリアルパークの進捗状況と地元工業者対策について質問いたします。「さわやかハートちば5か年計画」の中において、周辺環境と調和した魅力ある中核工業団地を中心に、各地域の特殊性に応じた均衡ある工業配置の実現に資する計画的工業団地の整備を県下全域に展開するとあり、計画中の工業団地として、南地区においては館山市があるとされております。

また、館山市基本計画においては、豊かな自然環境を生かした工業団地を県とともにづくり、企業誘致による雇用機会の増大と人口の定住化を図るとあります。このことは若年層の流出が目立ち、人口の減少化が進んでいる館山市にとり、人口増加、活性化のために積極的に推進すべき計画であると考えます。また、先端技術産業の企業誘致におきましては、NMBセミコンダクターの例に見られるように、行政の熱意ある取り組みにより道は開けると考えます。しかしながら、自然環境との調和、道路の問題、上下水道、土地のあっせん等、市のさらなる努力の積み重ねが必要と思います。現状の状況についてお聞かせください。本日18日は県よりの視察等もあるようでございますが、含めてお聞かせください。

地元工業者対策について質問いたします。館山市における工業者は、平成元年において 133事業所、従業員として 3,000名が従事し、それぞれの事業所において技術の高度化、設備の新鋭化に努力しています。しかしながら、

既設工場の中には住工混在による騒音及び狭隘、交通障害等の問題、また都市計画区域内における既設工場は、工場の規模の拡大、設備の拡張、倉庫の増築の制限を受け、事業の健全な継続、発展が問題となっております。このような地元工業者のインダストリアルパークへの移転等を積極的に考えられないでしょうか。

誘致企業について質問いたします。自然環境に適応する先端技術産業、成長産業の誘致に関しましては、今後多大な努力を要すると思いますが、その中に地元工業者の育成につながる企業の誘致を考えられないかということです。現在館山市の工業者は、富士ディーゼルの解散等により、その納入先が県北はもとより、埼玉県、神奈川県と移り、運搬コスト、労力は大変なものであると聞いております。地元工業者の製品が納入でき、技術の革新をとに進めることのできる企業の誘致ができないもののでしょうか、お伺いいたします。

次に、インダストリアルパークにおける企業の誘致とともに就業する人たちの住宅問題もあわせて考える必要があると思いますが、いかがなものでしょうか。

第4点目といたしまして、館山市におけるリゾート計画の進捗状況について御質問いたします。バブル経済がはじけて、株価の落ち込み、高金利、不動産投資への総量規制等、リゾート法が成立した87年とは経済環境が大きく変化し、全国で30地域がリゾート法の指定を受けながら、指定地域のうち10地域が構想の見直しを迫られている現状と聞いています。私はこの館山市の恵まれた自然環境との調和を図り、海洋性リゾートタウンのまちづくりを目指してリゾート開発を進めることは大変大事なことであり、積極的に推進しなければと考えます。また、この機を逃しては大規模なリゾート開発はあり得ないと考えております。国勢調査の速報を見ましても、昭和60年から平成2年の5年間で館山市は1,450人、安房全体では5,800人の人口が減少しております。また、先日の新聞報道を見ましても、館山市の65歳以上の人口の占める割合は19%を超え、高齢化が進んでおります。まさに過疎化が進んでいると言わざるを得ません。この過疎化に歯どめをかけ、地域経済の活性化

を図ることは、行政に課せられた急務の課題であると同時に、我々市民にも課せられた課題であると考えます。私は真にリゾート法は追い風と考えます。しかしながら、行政としての立場、企業としての立場、市民といたしてのそれぞれのさまざまな立場がございます。それぞれのさまざまな問題、立場に皆が一体となって推進しなければ、他に見られる誇れるリゾート地の形成はできないと考えます。リゾート開発は民間活力の導入が大前提ではありますが、ただ企業任せの開発では乱開発のおそれもあり、しっかりとしたコンセプトに基づき適切に誘導する必要と適切な支援体制がなければ、なかなか進捗しないのではないのでしょうか。

そこで、質問いたしますが、第1点として、これらバブル経済がはじけた中でのリゾート法で承認された民間リゾート開発計画の進捗状況はどのようなになっているのでしょうか。島田議員、山中議員より同じような質問がありましたので、簡単に結構でございます。

第2点としまして、これらリゾート開発を推進する上で、館山サンシャインリゾート推進連絡協議会及び南房フラワーパークリゾート推進連絡協議会があるといいます。今年度の事業計画はどのようなになっているのでしょうか、お伺いします。

以上が私の質問でございますが、私自身すべての問題について本当に突っ込んだ見解を持てた質問にならないことを残念に思います。今後市当局の方針を伺いながら、私は今後において勉強させていただきたい。そのような意図から、答弁によりまして再質問をさせていただきます。どうもありがとうございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの宮沢治海議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、自然環境と調和したまちづくりについての御質問でございますが、南房総地域はこれまで交通アクセスあるいは水資源等の事情から、大規模な開発が行われず、豊かな自然が多く残されてまいりました。この中で、

特に自然環境のすぐれた地域には、自然公園法の特別地域を指定し、その保全に努めてまいりました。

また、有数の景勝地であります平砂浦地区におきましては、千葉県との協力を得ながら公有地化を図り、景観阻害の防止策を講ずるとともに、開発事業に対しましては、残地森林及び造成森林を可能な限り確保するよう指導してきたところでございます。

さらに、総合保養地域整備法による重点整備地区を対象にいたしまして、館山市街並み景観形成指導要綱を策定するとともに、県道南安房公園線の沿道につきましては、建物の高さ制限を検討しており、自然環境の保全に鋭意努力をしているところでございます。

しかしながら、東関東自動車道館山線の開通及び南房総広域水道の通水等が当地域に多大なインパクトをもたらし、その結果開発に一層拍車のかかることが予想されますので、平成4年度までに都市マスタープランの策定を行い、マスタープランの策定目的の一つでもあります土地利用の基本方針を定め、将来都市像をより明確にいたしまして、開発と環境保全とのバランスに配慮しながら海洋性リゾートタウンのまちづくりを推進してまいり所存でございます。

次に、大きな第2の小さな第1点目、再開発事業の進捗状況についての御質問でございますが、昭和55年度から再開発事業につきまして調査、検討を進め、その間地元権利者の方々には会議、戸別訪問等を通じ御理解、御協力をお願いし、地元調整を図ってまいりましたが、いまだ地元地権者の方々の合意形成が得られず現在に至っております。

次に、小さな第2点目、再開発ビルの核店舗となるべき権利者からの大規模小売店舗法第3条申請の取り下げについてどのように考えているかとの御質問でございますが、再開発事業の推進に当たり、地元権利者の方々が同じテーブルに着いて合意形成を図る手段はないものかと地元調整を進めてきた中で、再開発ビルの核店舗となるべき再開発予定地区内の権利者により大規模小売店舗廃止の届け出がされる予定であると伺っております。

次に、小さな第3点目、大規模小売店舗法第3条申請の取り下げに伴う再

開発事業の見直しについての御質問でございますが、館山駅前東口地区につきましては、商業を初め、各種業務機能の増進と土地の高度利用等、都市環境の向上を図ることの必要性が強いため、周辺商業環境の変化等も考慮しつつ、今後も権利者の方々と話し合い、検討を行ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第3の小さな第1点目、インダストリアルパーク計画の進捗状況についての御質問でございますが、この計画は平成3年度にスタートした千葉県の「さわやかハートちば5か年計画」において、魅力ある中核工業団地の整備の一環として、館山の工業団地が位置づけられておりまして、現在千葉県企業庁において事業化すべく検討中でございます。館山市といたしましても、企業庁との連携を図りながら、地元及び地権者、さらには関係機関等との協議を進めており、今後とも早期実現に向けて全力を傾けてまいり所存でございます。

次に、小さな第2点目、地元企業の立地は可能かとの御質問でございますが、市内工業者の育成は非常に重要なことと認識しております。本計画は新たな雇用の場を創造し、若者の定住化を促すとともに、均衡のとれた産業構造を構築し、地域の振興を図ることを目的としています。したがって、基本的には企業誘致を考えておりますので、御理解を賜りたいと存じます。

次に、小さな第3点目、地元企業に波及効果の大きな業種の導入についての御質問でございますが、地元企業に波及効果が生ずるような業種の導入を関係機関とともに配慮してまいりたいと考えております。

次に、小さな第4点目、住宅対策についての御質問でございますけれども、この開発予定地内には住宅用地を確保する計画はございませんが、今後の課題として考えております。

大きな第4点目、小さな第1点、各リゾート計画の進捗状況についての御質問でございますが、さきに島田議員、山中議員の御質問にお答えしましたとおり、県との内協議及び事前協議中でございます。

次に、小さな第2点目、それぞれの推進連絡協議会の事業計画でございますが、今年度は総合保養地域整備法で承認されました各リゾート計画を積極

的に推進するために、重点整備地区実施計画の策定と国、県への財政、金融等の支援の要望が主な内容でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 御答弁の中で、自然環境の保護について自然公園法とか、そういったふうないろいろの施策がある。その中において図られているというふうに了解いたします。私はこれは本当に誇るべき自然なので、環境保全に努めるべきだと思います。その中で、まちづくりということについて質問させていただきましたので、それにちょっと関連したものについてお伺いさせていただきたいと思います。

まちづくりにつきまして、本当に私ども生活の周りを見まして質問させていただきますけど、やはり住宅ということでございます。インダストリアルパークの方でも住宅というふうにさせていただきましたが、いろんなプロジェクトが来ていると、インダストリアルパーク、またリゾート法、また昨日はかずさアカデミアパークというお話もありました。そういった中で確実に人口はふえてくると思います。また、予定人口では平成7年ですか、5万6,000人になっている。平成12年ではたしか6万人ぐらいの人口想定をしていると思いますが、そういった中において住宅地をどのように考えているのか。現実には先ほどの質問の中で、千四百何がしかの人口が館山市の中で減っていったらいい。しかしながら、住宅は年平均400軒近く新しくできているわけでございます。それがどのような形で展開されていくかと思えますと、決して満足されている状況では展開されていないと思うんです。それは何かと申しますと、上下水道の問題ですとか、また道路のアクセスですとか、そういった問題がすべて解決した上で住宅地が展開しているとは思っておりません。現実には私館山市内を見て回りましても、実は新しくきれいなうちができたんだけど、下水のことはどうなっていると、困っていると。どこへ流しているのですかと。いや、あそこの農家の方をお願いして流しているというのが現実でございますし、また友人にちょっと遊びに来いよと言われて行きましても、どういうふうに行ったらいいか。道がこうこう、こういうふう

なっているということで、大変道が複雑で、これは防災の方のこと出ましたが、いざ何か防災の問題があった場合において、これは道路も車がすれ違えないし、大変困るようなアクセスじゃないか。その中において住宅地等は開発されている。そしてまた今後においては、6万人という人間が—— なる中において、住宅地というのはどのように考えていったらいいのか。私としてはこの辺さっきゾーニングというふうに申しましたが、その中にやはり豊かな活力、福祉文化都市の文化というふうに考えた場合においては、芸術の文化もあるでしょうけど、生活の文化の中においても、やはり社会資本の充実したしっかりとした中身の住宅地も考えなくちゃいけないんじゃないかと思ひまして、今後やはり館山市のそういったマスタープランの中においても、住宅地というものをやはりしっかりと考えなくちゃいけないかなと思ひまして、その点と、現在の中における—— 私は言葉としておかしいんですが、いわゆるミニ開発的なものが多分に行われている面があるのじゃないかと思いますが、そういった場面における規制とか、そういったものも含めて現在の宅地の開発におけるお話を伺えたら大変ありがたいと思いますが。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えいたします。

まず、住宅地域の前に土地の利用計画の必要性を宮沢さん訴えておると思うんですけども、現在都市計画法によりまして商業系、住居系、それから工業系の6種類の用途地域を指定、そして適正な土地の利用を図っておるわけでございます。今後については、先ほども申しましたが、マスタープランの策定によりまして、用途地域を初め都市構造等の将来都市像が明らかになっていくので、そのような時点で新しくまたいろいろ考えてみたいと思ひます。

次に、住宅の問題ですけれども、これは昭和48年に宅地等開発事業指導要綱というものを策定いたしました。これは内容的には道路であるとか、あるいは排水、上水道、衛生、環境整備、その他相当ないろいろな項目があるわけでございます。その中に特に道路と排水についていろいろやかましく指導要綱を定めておるわけでございます。これについては3,000平米以上のも

のを一応対象としております。ところが、近ごろ相当開発が多くなってしまったので、小規模な開発、要するに 1,000 平米以上のものについても届け出を必要としております。その中で特に必要なものは、市長がこれについての審査もしておるわけでございます。そういったことでミニ開発をなるべく少なくしていきたいと考えております。さらに、これについては開発事前部会等をしながら、さらにこれを公平に、一人の人の考えじゃなくて、みんなの意見でこれに対処しておるところでございます。

以上のとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5 番（宮沢治海君） 私考えますに、行政のよく後追いとか何かという言葉がございしますが、先ほど防災の方の中でも、いわゆる排水の問題も出てきました。また、今後つくるいわゆる終末処理場等の問題もありますが、公共下水道も今後これからできていくであろう。また、水道も来るであろう。そういう中において、そういうふうに小規模的なものがどんどんできていきますと、排水の問題、下水が後から後から早くしてくれとか、ここはどうなっているんだという形で、行政の方が追いまくられるという形になると思います。これは今後ますます人口がふえてくるという予想のもとにおいては、それが大きいと思います。やはりその中においては計画的に、道路の問題、いわゆる中まではよろしいんですが、ここまでの道路は確実に市の方でやりますからというふうな形で、計画的なものを持っていかないと、いわゆる後から後から追いかけられてしまって、じゃこっちが先、あっちが先、いや緊急を要するというふうな判断になってしまいますので、なるべく前もって計画的にやって、良質な宅地、良質な住宅を誘致するように考えていく必要があるのではないかと考えます。

次に、第2点目の再開発事業についてお伺いいたします。先ほど市長さんの方から御答弁があったんですが、その中において、私は再開発ビルというものが大変大きな位置を占めているのではないかと。これができるかできないかによっては、はっきり申しますと、50%以上ぐらいの重きを置いて再開発事業の成否があるんじゃないかというふうな、もしくはもっとあるかと考え

ているんでございますが、その点について、再開発事業の中における再開発ビルの持っている様子、今後は検討していくというふうな状況であったんですが、果たしてそれで順調に進むかどうかというふうな疑問を持っているものでございますので、もう一度申しわけないんですけど、担当者からでも御回答をいただけたらと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 答えいたします。

過去いろいろな人からいろいろな提言がなされ、また賛同できない方、あるいは賛成の方、いろいろな話を伺っております。また、会議についても、何十回となく行われたわけでございますけれども、それで大きなテナントが向こうへ行ってしまったということの中で、これは皆さんだれもが考えると思いますけれども、今の駅からおりたときのあの東口あれでいいんだろうかということは、これは当然何かしらの開発は必要だろうということは、皆さんだれでも承知しておるかと思います。

さて、そこで問題なんですけども、過去のわだかまりを皆さん捨てて、一つの土俵——いや、土俵というんじゃなくて、四つに組むんじゃなくて、どっかの例えば大座敷に集まって、これから東口どうしようかということで、皆さんの商業者を初め住民の方から集まっていたいただいて、初めからいろいろなことを話し合いながら、その必要性をしていかなきゃならないんだと思います。当然これは市も支援いたしますけれども、何としても商業者が一番大事だと思いますので、これをまず認識していただいて、市は押しつけすることなくひとつしていきたいと思います。そういった原点に返ってもう一度話を進めるべきだと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 確かにその地権者が一番であると私自身も思いますし、その地権者またはその周辺の住民がこの都市間競争ですとか、また交通渋滞をいかに解消していくかというのは、それは真剣に考えなくちゃいけないものであると同時に、私はその中において、やはり権利というものを有し

ますと、多分に自分の権利を主張するのは当然なんです、全体がややもするとどこかへ飛んでしまうという場面がなきにしもあらずと思いますので、その場面においてやはり公平、公正なる目で見ても、また非常に熱意を持って取り組む行政の態度も必要かと思ひまして、それをひとつお願いしたいと思ひます。

まず、その中で再開発事業の見直しを原点に返ってということでございます。その中において、細かいことになりますが、DE地区の市街地再開発研究会とか、そういうのがありましたですね。また、その中においては、いわゆる本当に細かいこと言えば、DE地区研究会の中に入りました人にとりましては、あそこに自分で建物を建てたいんだと、しかしあそこは将来再開発ビルが建つから、ちょっと建設計画を待ってくれよとか、そういうふうな事情もあったようにまた聞いておりますが、そのような形でDE地区の市街地再開発研究会は今後どのような形で持っていくように考えているのか。また、その中に先年度6月の議会の中に、6月ですか、川名先輩議員がおっしゃっていました。いわゆる組合施行と公共施行というのがある。この辺で手法の見直しもしたらどうかというふうなこともありましたんですが、DE地区と手法の見直し、また何ゆえに今組合施行を持っていっているんじゃないか。その選ばれた理由と、今後はどのように考えているかということをお伺いさせていただきたいと思ひますが。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） ABCのDE地区なんでございますけども、DE地区というのは、いわゆる推進していこうということで、ABCが果たして反対ということではございませんので、その中のDE地区については、私この間の会議には出席できなかったんですけども、これからもひとつやっぺいこうよということで確認し合つて、非常にお気の毒な立場にある方々でございまして、これについても早速話し合ひまして、もちろんDE地区だけではなくて、今度は全体でまず話し合つて、その中でDE地区の方も入つていただいて、していきたいと思ひます。

それから、今までは東口の再開発事業が再開発ビルを建設した上で、権利

変換手法により土地、建物が区分所有される再開発ビルの一部である床に変換されることになると、そんなことから、これは商業者の問題であり、それから商業者自体が考えなきゃいけないということから、西口は市施行、それから東口は組合施行というふうにしたんですけども、これについても市もこうだよということじゃなくて、その手法についてももう一度話し合うことが必要ではなかろうか。あくまでもこれ施行者は皆さんでございますので、こういう商業者のものに対して市が非常に指導していくというのは、何しろ市の職員というのは商い全くゼロでございますので、そんなことから組合というふうに考えてはいるんですけども、その施行方法についても、もう一度考えてみる必要があろうかと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） この東口につきましては、館山市の表玄関というふうな形で先ほど質問させていただきましたが、まさに再開発事業、または銀座通りと、またいろいろな東口全体の中において考えていかなければならない問題であるかと思います。私自身としましては、この再開発ビルが第3条の取り下げがなされるということは、本当にこれは大きな問題であり、東口再開発事業における大きな転換期であり、また今後は原点に戻りましてと言いますが、本当に見直しをするならば、もうこれは早目にやっていただいて、長い年月がかかりますけど、確実にこれはやっていくんだという、そんなふうな意識のもとに、ぜひとも東口の開発といいますか、より表玄関としてふさわしいところになりますように、行政当局のさらなる熱意ある取り組みを期待いたしまして、また今後いろいろお話をさせていただきたいと思いますが、そちらの方は今回は以上で終わらせていただきます。

続きまして、インダストリアルパークの方について伺いたします。先ほど私はインダストリアルパークの中へ地元工業者の方を入れられるのを可能かというふうなことで御質問いたしましたが、もう一度御質問をさせ直していただきますれば、私は先ほど申したように、ゾーニングの問題で、いわゆる住工混在というようなことを言いました。いわゆる住宅地の中に工場が

ある。これはいい悪いではなくて、今後のお互いの発展のために、環境のためによくないであろう。そのための受け入れ先をきちんとしないと、いわゆる都市マスタープランをつくっても、それはただ単に絵にかいたもちになってしまう。やはり区画をつけたら、区画に合わない人がどこかに行った場合においては、受け入れ先を用意しなくちゃいけないだろうと思いますんですが、その中において工業というふうに考えた場合においては、私はあの中に受け入れられることを県に要望していく必要があるのではないかなということをしていま一度お願いします。それは県が確かにつくっているものでございます。これをもし館山市でいわゆる工業団地をつくろうとか、住工混在をなくそうとしてやったら、大変な労力とお金がかかるものでございます。それを県がやっていただくのは大変ありがたいものですが、それをありがたい、ありがたいだけではなくて、その中において館山市としての希望を要請していく必要があるかと思しますので、これは私としてはぜひとも県の方に、実は館山市としてはこういうふうな都市計画のもとにおいてこういうふうな状況なので、ぜひともそれは受け入れてもらうようにということを要望していく必要があるのではないかと思います、いかがでございましょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） お答えいたします。

現在のインダストリアルパークの計画予定地、総体で68.7ヘクタールということで予定しています。この中に工業用地として18.4ヘクタール、全体の26.8%という用地分しかこれとれない。いろいろと形状の関係ございます。もちろん林間工業団地としての山林化、いろいろとそういった公園化といいますか、緑地の部分を十分に持てという計画でございますし、その中での工業誘致部分としてこれだけしかとれないというふうな状況で今計画進んでおります。したがって、この中に住宅部分というのはちょっと無理じゃなかろうか。これは県の方とも多少の話は進めたこともありますが、そんなことで先ほど市長からも申し上げましたんですが、これはここは無理でも、そのほかのところでもって考えてまいりたい。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 私も今の計画の中へ、もし住宅地が中に入ればいいかなと思うんですが、やはり自然と調和したといいますと、また住工混在をなくすということから、工場と住宅地というのは別に考えたいと思いますが、その上で質問をさせていただきたい。今18ヘクタールが、これは工業用地だとお伺いしました。ごく平均にこの工業団地等ができた場合に、1区画の——これは私はあくまで地元の工業者が入れたらなという感じなんですよ。1区画は大体どのくらいの広さが考えられるのか。また、その中において、入る中において、地元工業者では1社ではそれが入り切れないと思うんですよ。そういった場合の入る方法とか、またそういった入る希望の伸びとを今後どのように集計していったらいいのか、そういうふうな地元工業者の要望等はどのように今後把握していく予定なのかということをお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 最初の方の御答弁ちょっと間違えまして、大変失礼いたしました。

まず、ただいまの区画の段階ですが、今基本計画の段階ですが、9区画予定しております。大きさは最低が0.6ヘクタールから最高3.6ヘクタールを予定しております。

なお、地元の工業関係ということでございますが、先ほど市長が御答弁申し上げましたように、基本的には新たな企業の立地ということを考えておりますし、また安房に中核工業というふうなことで進んでおりますので、現状の段階では御理解いただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 細かいことで済みませんが、確認なんですけど、今18というふうな工場におきまして、就業人員の見込みというふうな、これ住宅の問題とも絡んできますが、大体どの辺ぐらいの人数を予定していますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） おおむね 1,500人程度を見込んでおります。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 確かにいろんな県がやってくれるもので、その施策に合うようにということは、非常に大事な場面でございますけど、やはり館山市の発展の中でそれをどのように位置づけて考えていくかということも大事な問題であるかと思しますので、館山市の工業者の方々の御意見等も伺いまして、それがスムーズに、またいろんなさっき申したように進入路の問題ですとか、土地のあっせん等もございしますが、スムーズに進むようにこれらの努力していただきたいと思っております。よろしくお願いします。

続きまして、リゾート法のことについてお伺いします。先ほど中で積極的にリゾート法を推進していくことは理解できましたんですが、現実これから起きてくると思うんですけど、開発業者、民間業者があるんですが、それに対する行政としての支援措置はどのように考えておりますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 大きな視点で見ますと、基盤整備としての広域幹線道路、こういったもの、それから水資源、この開発であろうかと思いますが、先ほども市長が申しあげましたような財政、金融上の優遇措置もございしますので、この辺の支援も進めてまいりたいというふうなことになります。さらに、許認可事務への迅速な対応が図られるよう県への働きかけ、また地元への説明会と申しましょうか、そういうようなことになろうかと思えます。以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 民間事業者に対する行政等の支援措置、これは非常に大事なと思います。そして、その中に今地元対策というふうな形が言葉でございました。昨日の島田議員ですか、島田議員の質問の中にも地元への対応はどうなっているのかというふうな形もございましたですが、地元民間への支援策と同時に、地元への対応も大事なというふうに、十分に本当に大事じゃないかなと思っておるんでございます。先ほどいろいろな協議会等も質問させていただきました。これは大体何回ぐらいの予定で今後開いてい

くのかということと、またその中で地元の人の意見というのを十分に反映できるのか。そして、それではまた変わらしまして、地元の人の意見をどのような場面で反映していくことが今後できるんであろうかということを教えていただきたいと思いますけど。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） それぞれのリゾート開発計画の地元の状況を把握しながら、なるべく多くの対話といいたしましょうか、説明会等を持ちたいと思います。

なお、きのうもちょっと御質問の中でお答えいたしましたんですが、現在山間部の開発が県の方への内協議、事前協議ということを進めております。しかしながら、海部の開発につきましては、県の方針等もございまして、最初の計画が大幅に変更ということになるわけでございます。したがって、こちらの方も――これは企業だけではなくて、当然地元、そして市、これは3者でもってこの辺の内容等についても今後十分に話し合いを持ちまして進めてまいりたい、こんなふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） それぞれの計画が順調に進んでいるというふうに私は感じるんでございます。中には、しかし銚子においてはマリンタワーですか、あれは既に完成というふうな形で出ていますし、また鴨川においてもいわゆるマリン計画等もそれなりに順調に進んでいるというふうに聞いておりますので、館山市は決して焦りなく確実な歩みをしていくことが必要だと思います。その中において行政と地域と、あと民間業者、これが一体になってやらなくちゃいけないということは重々感じている次第でございます。行政はもちろんその中で地域の人の意見を大いに取り入れていくことも大事であることは、私もそう思いますが、ちょっと質問させていただきたいんですが、その中において地元になしに現地事務所というものがあると思うんですが、これは2つの事業計画重点地区ですか、中において2つの事業主体になっているところは、それぞれ現地事務所というのを設けているんでございませう。

うか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） そのとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 一つの提案と言ったら大変おこがましいんですけど、いわゆる地元の人たちの意見がどのように、今後の開発の中へ生きていけた場合においては、行政との十分な話し合いも大事でしょうし、また中においては民間業者に直接、向こうから来るんでなく、言っていく場面もつくることが大事じゃないかなと思いますんですが、その民間の方の事業者の今の現場事務所というのは、地元の方がフリーに入ってどんどん — それは秘密のこともあるでしょうが、入れるような状況にはなっているんでしょうか、いかがでしょうか、それは。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ちょっとその辺が大変申しわけないんですが、その事情につきまして十分に把握しておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） これはできるかできないかはわからないんですけども、企業の秘密ですとか、最近盛んに採算性とか何か、それが云々ということで秘密があるということを聞いておりますが、しかし企業もやはり地元の中で生きていくのでございましょうから、地元のコミュニケーションを図る場合においては、一つの手段として現場事務所をフリーにどんどんして、我々はこういうふうな意見だというのが聞けるような場面をつくることも非常に必要ではないかなと思います。

私はリゾート開発というのは本当に期待を持っておるものでございます。これがぜひとも成功すれば、いろんな施策とあわせて館山市の活性化につながるというふうに思っています。しかし、その中で一つ思いますことは、決してリゾート開発をしたから、開発した場所と他の地域で壁をつくってほしくないということですね。壁をつくって、これから中はリゾート開発したと

ころだから、館山市民の方々はお断りとか、そういうふうなことはないように、決して館山市民が、我々がそこに協力してこういうふうにやってできたんだから、館山市民もそれを十分に満喫できる、自分たちの生活の中に、豊かな生活の中にリゾート開発を取り組んだというふうな、そういった意識のもとに取り組んでいかないといけないかなと思います。大変この場面に似つかない言葉かもしれませんが、極端な言い方をさせてもらえば、よくちまたで言うんですけど、いわゆるリゾート開発ですばらしい建物ができた。では、その入り口へ行ってみたら、犬と館山市民はお断わりだとか、そういったふうなことは決してないように、これは民間業者の社会的責任もあると思いますので、しっかりと行政の方でその首根っこをつかんで、指導していくことで、そのもとにおいてリゾート開発が館山市にふさわしく進捗することを願ひまして、質問を終わらせていただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で5番議員宮沢治海君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後2時17分

◎議長（福原 勤君） 本日の会議はこれにて散会いたします。

次会は明19日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議を行います。

この際、申し上げます。平成2年度各会計決算に対する質疑通告の締め切りは9月19日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問

